
命（後悔しないで…させないで…）

ユジン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

命（後悔しないで…させないで…）

【Nコード】

N0005F

【作者名】

ユジン

【あらすじ】

中学3と小学6年の男の子を持つ母親に癌の宣告。親友の娘の自殺。悲しきひと夏の物語り。

2008年 9月平穏な日：毎日、毎日、 過ぎていく。 今日
が来て明日が来る。 当たり前前の事と思っていた。 あ
の日、あの時：

「死」という宣告を受けるまでは：

私の名前は新山かなめ35才 夫 36才 長男 15才
次男 11才 の4人家族。 〔第1章〕 「受験生」

長男の翔太は今年受験生。 三年生にもなると、そろそろ進路が決まって来ます。 親も子もピリピリすることがあるのではないのでしょうか。 うちの家族は何でも話し合います。

翔太はあまり勉強が得意ではなく、浮き沈みが激しい性格でもあり、つい、私の方が、ガミガミ言うと、お互い、行き違い、聞き違いがあり、喧嘩になります。 5月頃にも、喧嘩になった時に：

「高校へ行かずに働きたい」と、手紙にして伝えて来た事がありました。 親として、せめて高校へは：と思うだけに、すごくショックな事でした。 そんな話し合いの

中、どんなに忙しくしても、私を支えてくれるのが、主人の存在でした。 父親というのは、偉大であり、頼りになるものです。

たかが16才の子供が就職するという事が、どれだけ大変か：。 と、いう事実。 同級生が楽しく学校に通つ

たり、バイトしたり、遊んだりする：普通の生活。 働く事は、高校卒業後で充分。 高校へ行かなければ：必ず後悔する。

必ず：。 それを分かってくれた翔太は、その日から、やる気を出して頑張るようになりました。 〔第2章〕

「いじめ」 2008年 7月

あの子が命を経ったのは、蟬がミンミン泣く、暑い季節。

夏休みに入っつてすぐの出来事でした。

私の親友の紗枝は中学1年の娘、貴枝ちゃんと二人暮らしで

した。

7月23日 午後 7時過ぎ。

紗枝から自宅へ電話が入る。

「か…かなめ…どうしよう…」

き…き…き…き…貴枝がね…」

死んだ…。

「 受話器向こうで震えて話す、紗枝… 私も何が何だ

か分かりませんでした。

貴枝が死んだって…おとつい一緒にご飯食べたじゃん。

私には、 元気に笑う貴枝の姿… しか…思い浮かばな

い。

そうだ。

おとついご飯と一緒に食べた時、 トイレに立った紗枝を見
届けると、貴枝がこう言った。

「 かなちゃん… あんね… うちね…」 真剣な顔

をした半面、何か言いにくそうに… 「貴枝、どしたの？」

なんかあったん？ なんかあるなら、何でも話しいや」 と私
は言う。

「ううん。

何でもないんよ」と貴枝は笑った。

そこに紗枝が戻って来た。

もしかして、あの時が最後の SOS だった

のか… そう。

貴枝は自殺した。

その時は何が理由かも分からなかったけど、あの日の夜、私
に何か伝えたかったのは事実。 私は自分を責めた。

あの時、 何で気付く事が出来なかったんだろう。 その日の

夜、貴枝の部屋から一冊の NOTE を見つけた。 紗枝宛てに綴

った手紙もあった。

NOTE には、 一日の出来事がびっし

り書いてあった。 貴枝を死に迫いやった犯人は

「いじめ」だった。

陰険な陰険ないじめだった… ？

？が川まで私を連れて行き、汚い泥水を口に流し込む。学校に行けば、上履きは隠され： クラス全員に無視され： 給食の時間が終わる頃、残り物を集めた残飯を、食べろと言われ： しぶしぶ食べた。 気持ち悪い。 助けて： その日に勇気を出して先生に話したらしい。 先生が放った言葉は「??さんは、そんな事するような子では、ないわよ」 一応、声をかけとくけど、 クラスメイトを頭ごなしに悪く言うのは先生はどうかと思うなあ」と言ったらしい。 ??さんのお母さんはPTA会長だから、先生は何も言えないんだ： 先生なんて大嫌いだ。 信用出来ない。こんな学校に私の居場所なんてない：。

「お母さんへ」

お母さん、この世に私を産んでくれて、一生懸命私を育ててくれたのに、先に逝く事を許してね。

貴枝は学校もいじめも勉強も、何もかも嫌になりました。

せめてお母さんやお母さんの友達が居て、楽しい事もあったけど、それ以上に学校でのいじめはひどく、辛かった。

苦しかった。

いつも、いつも死にたかった。

きつと死んだら天国には行けないね： でも今は生き地獄な

んだよ： だから、私は死を選びます。

お母さん：お母さん：ごめんなさい：。

涙の落ちた後で綴られた手紙を見て、私と紗枝は泣き崩れ、取り返しのつかない事の事実に、怒りと悲しみで体を震わせた。 いじめ： 絶対に辞めて。 何にもならない： 人を傷つけるだけ。 いじめられる子にも、問題はあるのかもしれないけれど： いじめで簡単に人の命を奪えると言う事： 考えて下さい。

（第3章） 「告知」

2008年

8月

子供達も夏休み真っ最中。

いろんな事がバタバタと過ぎた日々。

私は、近頃： 下腹部にチクリと痛むのが気にはなっていた。

1週間が過ぎた頃、まだ痛む。 夫にも進められ病院へ行く。

いろんなと検査をして、その日は帰宅し、2日後に検査結果の一本の電話。 「お話がありますので、ご主人とご一緒にいらして下さい」

： 。 えっ何で：何か悪い病気なの？

と悪い予感がした。 次の日、夫と病院へ： 先生が言いにく

そうに、口を開く。 「子宮癌です。 それもかなり悪い状態な

ので、すぐに入院を」 私は

「それって死ぬって事ですか？ どれくらい何年生きられますか？」

先生は

「： 長くて半年：です。」 私は目の前が真っ暗になりました。

隣にいた夫が何やら先生に、訴えてる言葉すら、その時は何も聞こえない。 一人真っ暗闇に閉じ込められた感じでした。

病院から出た先の、静かな公園のベンチ。二人で腰かけました。

私は事実を受け止める事など出来ずに、 「死にたくない

：死にたくない：なんで？どうしてよ？ 怖いよ：怖いよ：」

かなり取り乱しました。 まだまだ、やりたい事がたくさんある。

子供達に教えたい事たくさんある。 まだ母親が側にいないとい

けない年頃なの：二人とも：。 これからどうすれば： 泣き

じゃくるしかありませんでした。 そんな私を夫はしっかりと抱き

しめて： 「俺も一緒に逝こうか： 逝くよ：」と号泣してい

ました。 二人で目が腫れ上がるまで泣きました。

夫の言葉を聞いた時、 本音は一人で死ぬより一緒にいいと

： 本心はそう思った。 そんな事はさせられない。

子供達がいる。夫も子供達にも、未来がある。 残り少ない時

間を精一杯生きていくと、胸に誓った一瞬だった。 一緒に死

ぬと言った夫の愛の形に、私は心からありがとうと呟いた。

〔第4章〕 「愛する子供達」

2008年 8月10日 入院 子供達にも事実を告げ

た。 二人とも泣き崩れた。 夫が言った言葉と同じ

「一緒に死ぬ」と翔太も言った。 次男の亮太は私にぴたりとくつついて、離さなかった。 こんなに早くに逝ってしまう

私より、こんなに早くに母親を亡くしてしまうこの子達の事を考えると、 胸が締め付けられるように苦しくて…痛かった。

翔太へ

こんなにも早くに逝ってしまうお母さんを許してね。 人並み

で良いから勉強頑張って。 志望高合格すると良いね。 高

校行ったら新しい友達たくさん作ってね。 楽しい高校生活送って

ね。 今のまま、優しい人でいてね。 たった一人の兄弟だから仲良くしてね。 まだまだ伝えたい事はいっぱいあるけど…

ごめんね。

亮太へ

甘えん坊の亮太はお母さんツコだったから、お母さんは心配です。

真っ直ぐ生きてね。

勉強もこつこつで良いから頑張って。

友達とも仲良くね。

お母さんは天国で見てるからね。

（愛する子供達へ）

（お

母さんより） 生きたくても生きられない人もたくさんいる。

命を経つ人、 思い留まって下さい。 生きていけば、生き

てさえいれば、時間が時代が過ぎ、変わるから。 命こそ、こ

の世で1番の贅沢な宝物です。 だから… 今を生きてる人。

（後悔しないで…させないで…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0005f/>

命（後悔しないで…させないで…）

2010年10月21日23時14分発行